

平成30年度 授業改善推進プラン 中学年

	平成29年度授業改善プランの検証と調査結果の分析 (○はおおむねできていること、△は課題があること)	授業改善策 (○よいところを伸ばすための方策、△課題を解決するための方策)
国 語	<p>○読書の時間を計画的にとり、様々な文章を読む機会を積極的に取り入れたことで、物語の内容の読み取りが目標値に到達した児童が多かった。</p> <p>○学校全体で、話したり聞いたりする活動の充実を図ったことにより、「話す・聞く能力」の正答率は、ほぼ目標値に達することができた。</p> <p>△漢字を読むことに比べると、書くことに課題がある児童が多く、目標値を下回っている。</p> <p>△自分の意見とその理由を区別して文章を書く問題と2段落構成で文章を書く問題は、目標値を下回っている。</p>	<p>○継続して様々な文章について、声に出して読む活動を積極的に取り入れる。</p> <p>○国語で指導した技能を、学級会や様々な教科で意識させて実践できる指導を行う。</p> <p>△漢字の指導は、教科書の進度を前倒しで行い、小テストや50問テストなどを繰り返すなど、定着させるために時間をかけて指導する。</p> <p>△「報告文」「レポート」「意見文」などの、書く単元に限らず、文章を書く機会を増やして指導する。物語や説明文の読み取りでも、意見と理由を区別して書き、自分の解釈を説明できるように繰り返し指導する。</p>
社 会	<p>○見学や体験を多く取り入れたことで、調べ学習への興味、関心が高くなり、安全な暮らしや昔のくらしの様子など、調査をとまなう学習についての問題の正答率が高い。</p> <p>○地図記号を正しく覚えている児童の割合が高い。</p> <p>△提示された資料の中から必要なものを的確に選び、活用していく力が十分ではない。</p> <p>△知識をもとに考察したり、考察したことを適切に表現したりする力を高めていくことが課題である。</p>	<p>○引き続き、可能な限り見学や体験の活動を取り入れたり、ICT機器を活用して実感のともなった学習にしたりすることで、学習問題を解決する必要性や、関心・意欲を高める。</p> <p>○ビンゴやカルタなどの、楽しく覚えられるような教材を用いたり、慣れ親しむ場を設定したりして、地図記号(3年)、都道府県(4年)の定着を図る。</p> <p>△教科書や地図帳、資料集等のグラフやデータの読み取り方を一つ一つ確認し、社会的事象の根拠となるデータは何かを考察させる。</p> <p>△資料から読み取ったことを書き出して友達同士で交流させる。さらに、そこから考えたことをノートにまとめる活動を取り入れ、資料活用の力を高める。</p>
算 数	<p>○繰り上がりが3回以上あるたし算や連続して繰り下がるひき算の正答率が高い。</p> <p>○グラフの読み取りや、情報を表に整理する力が付いている。</p> <p>△2けた以上のかけ算や、あまりのあるわり算の正答率が低い。</p> <p>△分数の問題で、分子が1の分数がいくつで1になるのかを答える問題の正答率が低い。</p> <p>△図形についての問題の知識・理解面に課題がある。</p>	<p>○計算が正しくできる児童が多いので、さらに速く正確にできるように、反復練習をする。</p> <p>○資料を整理したり、グラフに表したりすることができるので、考察して交流する活動を取り入れ、グラフの特徴や有用性を実感させる。</p> <p>△ステップ学習の時間等、短時間で集中してたくさん計算問題を解く活動を積極的に取り入れ、計算力の向上を図る。</p> <p>△もとになる量を等分して表した図や表を用いて、分数の概念や分母と分子の数字の意味を正しく理解できるようにする。</p> <p>△ICT機器を活用して図形の特徴を視覚的に捉えさせ、図形についての見方や感覚を豊かにする。</p>
理 科	<p>○実験・観察を通して問題解決をすることに対する意欲が高い。</p> <p>△3年生の学習内容では、知識・理解面が目標値よりも低いため、昆虫の体のつくりや植物の育ち方、光の性質についての理解を確実にすることが課題である。</p> <p>△4年生の学習内容では、観察や実験の技能に関する問題の正答率が低いため、観察や実験の機会を増やしていくことが課題である。</p>	<p>○問題解決の際、既習内容をもとに実験したり観察したりする過程を意図的・計画的に取り入れる。</p> <p>△動植物を観察する機会を多く設定し、自然事象に関する知識の定着を図るとともに、ミニテストなどをくり返して理解を確実にする。</p> <p>△観察や実験を行う際に、ねらいや視点を明確にして活動を行う。また、可能な限り一人一人に実験や観察の機会を与えられるよう教具を多く準備し、手に触れて実感をとまなわせながら観察や実験の技能を高めていく。</p>

<p>体 育</p>	<p>○運動に対する意欲は高く、進んで運動に取り組んだり自己のめあてに向かって努力したりする児童が多い。 ○学習カードに記録することにより、努力の成果を認識できた。 △自分の課題を見付け、それを解決するための練習方法を考えたり、練習の場を選んだりすることが難しい。 △友達と教え合ったり、見合ったりするときのアドバイスの仕方が身に付いていない。 △技能面では、体力テストの結果から、持久力の低さが課題である。</p>	<p>○児童の実態に応じて、規則や場の設定を工夫し、児童が自ら課題を見付け、解決していけるように計画を立てる。 ○学習を振り返り、気付いたことや考えたことなどを友達と交流し、深める時間を設ける。 △学習カードや掲示物等を活用し、自分に合うめあてをもたせたり、技能ポイントを理解させたりする。 △技能習得へのステップが視覚的に分かるようにし、友達と教え合ったり、見合ったりする活動を取り入れる。 △持久力向上のため、体育の授業の始めに3年生は校庭を2周、4年生は3周走る活動を取り入れる。</p>
<p>音 楽</p>	<p>○音楽の表現活動に多くの児童が意欲的に取り組むことができる。 ○音楽表現の楽しさを感じ取っている児童が多い。 △基礎的な鑑賞能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする必要がある。</p>	<p>○友達との関わり合いの中で発想を広げて共有し、思いや意図をもって意欲的に表現できる活動を引き続き行う。 ○音楽表現に必要な基本的な技能を身に付け、思いや意図を表現できる活動を継続する。 △範唱・範奏や、友達と自分の音を互いに聴き合いながら、表現に必要な技能を身に付ける。</p>
<p>図 工</p>	<p>○造形活動に意欲的に取り組むことができる。 ○感じたことや想像したことから表したいことを見付けることができる。 ○鑑賞する活動を通して、よさや面白さを感じることができる。 △表したいことに合わせて用具を適切に使い材料の特徴を生かす力が不十分である。</p>	<p>○児童が興味をもつような題材設定を工夫し、自己表現する喜びや達成感を味わわせる。 ○様々な材料や道具に触れる機会をもち、形を変えたり組み合わせたりするよさや面白さを味わわせることと、児童にとって身近な視点からイメージしやすい課題のテーマ設定を行う。 ○鑑賞活動において感じたことや思ったことを話し合ったり、表現の意図を説明したりするなどの言語活動をさらに充実させる。 △児童が理解しやすいよう、ICT機器を使いながら、ポイントを明確にして見せ、用具を適切に使いこなせるようにする。また、机間指導しながら個別に支援する。</p>